教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 健康・スポーツ科学科　　資格： 教授　　氏名： 坂井　和明

研究分野	研究内容のキーワード
コーチング学、トレーニング科学、スポーツ運動学	球技、技術・戦術、コーチング、質的研究、専門的持久力
学位	**最終学歴**
博士（体育科学） 修士（体育学） 学士（体育学）	筑波大学大学院博士課程 体育科学研究科 単位取得後満期退学 筑波大学大学院修士課程 体育研究科 修了 筑波大学体育専門学群 卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.修士論文指導	2023年4月1日～2025年3月31日	修士課程健康・スポーツ科学研究科：齊藤由珠への実践研究指導 大学女子バレーボール競技におけるチームトレーニング課題の明確化 ：セットの勝敗に着目して
2.博士論文 副査	2023年3月～	筑波大学 博士後期課程 人間総合科学研究群 コーチング学学位プログラム 予備審査および本審査 球技チームにおける監督の情況把握能力に関する発生運動学的研究 ーハンドボール競技を例証としてー
3.博士論文 副査	2022年12月～2023年2月	筑波大学 博士後期課程 人間総合科学研究群 コーチング学学位プログラム 予備審査および本審査 球技のグループ戦術で働いている実践知の構造-バスケットボールのピックプ レイを対象として-
4.修士論文指導	2019年4月1日～2021年3月31日	修士課程健康・スポーツ科学研究科：薦田　遥への実践研究指導 大学女子カテゴリーにおいて全日本学生選手権大会優勝経験を有するコーチの実践知 ：ダブルゴール・コーチングに着目して
5.修士論文指導	2017年04月～2019年03月	修士課程健康・スポーツ科学研究科：山中雄介への実践研究指導 柔道におけるオノマトペを使った効果的な指導法
6.修士論文指導	2016年04月現在2018年03月	修士課程健康・スポーツ科学研究科：西村莉子への実践研究指導 女子陸上七種競技におけるトラック種目とフィールド種目の得点獲得方法の変化 ：2004年中学生競技規則変更の影響に着目して
7.「見ながら・聴きながら・メモを取る力」を育成する授業	2016年04月～現在	講義科目「コーチング」の授業において、学生が「単にパワーポイントを書き写す」だけの授業方法から、パワーポイント資料は事前に学内ネットワークを通じて配信し、授業中のパワーポイント使用は極力少なくし、資料の補足事項・追加事項・具体例等の説明をを口述や板書等によって積極的に行うことによって、「見ながら・聴きながら・メモを取る」という卒業後に活躍できる社会人になるために必要不可欠な力を意図的に育成することを主眼に置いた授業方法へ転換を図っている。
8.修士論文指導	2014年04月～2016年03月	修士課程健康・スポーツ科学研究科：今井啓介への実践研究指導 インドアバレーからビーチバレーへ移行する際の課題に関する研究：困難度の因子構造に着目して
9.スノースポーツ実習担当教員のFD	2011年04月～2014年03月	学科専門教育科目「スノースポーツ実習」実習長として、現地インストラクター中心の実習から本学科教員も指導に加わる実習へ修正。また、事前に実習初担当の教員を前泊させ、現地ゲレンデの安全確認や指導内容の伝達ができる仕組みを整えた。更に、指導初日

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		に、参加全教員に対して「指導目標」「指導方法」「評価の観点」を共有するための現地インストラクターによるFDを実施。
10.修士論文指導	2011年04月～2013年03月	修士課程健康・スポーツ科学研究科：東元望由紀への実践研究指導 バスケットボール競技におけるインサイドエリアでの攻撃戦術に関する？究 ：女子世界トップレベルでの試合を対象として
11.修士論文指導	2011年04月2015年03月	修士課程健康・スポーツ科学研究科：渡邊和香への実践研究指導 バスケットボール競技のオフザボール・スクリーンプレイにおける状況判断に関する研究
12.バスケットボールの初心者指導ができる保健体育科教員の育成	2003年04月～現在	実技科目「バスケットボール」授業において、初心者のゲームの質を高める指導方法、技術的課題と戦術的課題の両方を指導する方法、「未来へパス！」「バスケットボールは恋愛力！」など子ども達が興味関心を持つようなキーフレーズを使った指導方法、指導者としての「運動を見抜く力」の養成、キャプテンを中心としたグループ学習を通じて「わかる～できる～伝えられる」の段階を踏んだ授業を行い、初心者指導ができる保健体育科の教員養成を行なっている。
13.授業外における学習を促進する取り組み	2003年04月～現在	実技科目「バスケットボール」授業において、「頭でわかったこと」「できるようになったこと」「指導者になった時の工夫」の３点を記入するプリントを毎授業配布し、授業後に振り返りを行なわせることによって学習内容の定着を促している。 講義科目「コーチング」授業において、現場での「ティーチグ（教える）行動」や「コーチング（引き出す）行動」の参考になる様々な書籍やウェブの情報を学生に積極的に提示し、学生の授業外での主体的な学びを促している。
2 作成した教科書、教材		
1.球技のコーチング学	2019年8月1日	日本コーチング学会叢書の一つとして発刊した球技のコーチング学。 中川・會田・坂井が編集。 コーチング学の研究を行いながらJOCあるいは各競技団体強化スタッフとして活躍するかたわら、各大学のスポーツ指導現場で直接指導にあたっているコーチが分担執筆。 執筆箇所（単著）：第2章球技におけるゲームの特徴. pp.23-62. コーチング論の教科書として活用
2.コーチング学への招待	2017年04月10日	日本コーチング学会がコーチング学の一般理論としてまとめた本格的な専門書。 コーチング学の研究を行いながらJOCあるいは各競技団体強化スタッフとして活躍するかたわら、各大学のスポーツ指導現場で直接指導にあたっているコーチが分担執筆。 執筆箇所（単著）：第6章試合への準備 第6節トップ選手の試合計画-3判定スポーツ. pp.270-275. コーチング論の教科書として活用
3.バスケットボール指導教本 改訂版[下巻]	2016年09月20日	公益財団法人日本バスケットボール協会が2002年に出版したバスケットボール指導教本の全面改訂版下巻。 高度な技術や戦術の理解とその指導方法についてまとめている。 執筆箇所（単著）：第1章ファンダメンタルの指導 -2シュート. pp.11-34. バスケットボールで活用
4.バスケットボール指導教本 改訂版[上巻]	2014年08月20日	公益財団法人日本バスケットボール協会が2002年に出版したバスケットボール指導教本の全面改訂版上巻。 指導者としての基本的な考え方や発育発達期のプレイ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		ヤーへの正しい理解、バスケットボールの基本的技術の理解とその指導方法についてまとめている。 執筆箇所（単著）：5章シューティングの指導. pp.94-119. バスケットボールで活用
5.スポーツ科学・医学大辞典　スポーツ運動科学ーバイオメカニクスと生理学ー	2010年10月05日	本書は、国際的に評価が高いスポーツ科学・医学シリーズである「Exersice & Sport Science」の邦訳である。生化学、運動生理学、基礎医学などの基礎科学から、臨床医学のトピックス，バイオメカニクス，応用生理学などの応用化学に至るまでをもれなく包括的、体系的にカバーするとともに、スポーツ科学の今日的課題を浮き彫りにしている。 担当箇所（単著）：第Ⅱ部 第5章間欠的運動の生理学 pp.50-60. コーチング論で活用
6.バスケットボール　ポストプレーのスキル＆ドリル	2009年03月20日	本書は、バスケットボールの攻撃と防御の両面からポストプレーの技術・戦術を解説するとともに、プレーヤー育成のためのドリルを体系化した「Burrall Paye（1996）PLAYING the POST Basketball Skills and Drills」の邦訳であるが、原書にはない技術解説のイラストを大量に加え、言葉だけではイメージしづらい動きのポイントを感じ取れるようにしている。バスケットボールで活用
7.最新スポーツ科学事典	2006年09月25日	本事典は、社団法人日本体育学会の創立60周年記念事業の一環として企画され、刊行されたものである。日本体育学会が半世紀以上にわたって、推進してきた体育・スポーツに関する科学的研究成果のすべてを網羅している。 執筆箇所（単著）：トレーニングの原則 pp.702-704. コーチング論で活用
8.臨床スポーツ医学　スポーツ医学検査測定ハンドブック	2004年12月01日	本書は、学際的な色彩が強いスポーツ医学領域におけるスポーツ医学に関わる検査・測定を幅広く取り上げたものである。 執筆箇所（単著）：第1章B.種目別体力特性の測定と実際 球技2.バスケットボール pp.62-64.
9.教師のための運動学	1996年04月01日	本書は、体育学と実践現場とをつなぐ一般理論として欠かせない「運動学」の理論と展開を、具体例をあげながらわかりやすく提示した教師のための入門書である。マイネルのスポーツモルフォロギーの考え方を基に、現場の指導者や教師がどのように動き方を覚えさせるとよいのか、理論を提示。合わせて、跳び箱運動をどう考え、どう教えるのか等、具体的な指導を解説している。 執筆箇所（単著）：第Ⅳ章9. ボール運動のゲーム学習の進め方 pp.229-254. バスケットボールで活用
10.シリーズ[トレーニングの科学]2 エンデュランストレーニング	1994年10月25日	本書は、持久力のトレーニング法を、スポーツ医科学的な基礎理論と各競技スポーツの指導現場における実践及び課題の両面から具体的に明らかにしたものである。 執筆箇所（単著）：2.競技スポーツにおけるエンデュランストレーニングの実際と課題-13バスケットボール pp.111-119.
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.武庫川女子大学健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科/スポーツマネジメント学科	2024年4月1日現在に至る	担当科目：スポーツ運動学
2.武庫川女子大学　健康・スポーツ科学部　健康・スポーツ科学科	2015年04月～現在	担当科目：コーチング論
3.武庫川女子大学　大学院修士課程　健康・スポーツ科学研究科	2014年04月～現在	担当科目：課題研究Ⅱ
4.武庫川女子大学　大学院修士課程　健康・スポーツ科学研究科	2013年04月～現在	担当科目：課題研究Ⅰ
5.武庫川女子大学　大学院修士課程　健康・スポーツ	2011年04月～現在	担当科目：スポーツコーチング特論

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
科学研究科		スポーツコーチング演習
6.武庫川女子大学　文学部　健康・スポーツ科学科（2011年04月から健康・スポーツ科学部）	2011年04月～2015年03月	担当科目：体力の測定評価演習
7.武庫川女子大学　大学院修士課程　健康・スポーツ科学研究科	2011年04月～2013年03月	担当科目：スポーツ科学総論 スポーツ・リハビリテーション科学研究法 スポーツトレーニング科学特論
8.武庫川女子大学　文学部　健康・スポーツ科学科（2011年04月から健康・スポーツ科学部）	2010年04月～現在	担当科目：卒業論文
9.武庫川女子大学　文学部　健康・スポーツ科学科（2011年04月から健康・スポーツ科学部）	2009年04月～現在	担当科目：健康・スポーツ科学演習
10.武庫川女子大学　文学部　健康・スポーツ科学科	2006年04月～2010年3月	担当科目：コーチング論Ⅱ
11.武庫川女子大学　文学部　健康・スポーツ科学科	2005年04月～2010年03月	担当科目：スポーツ指導論
12.武庫川女子大学　文学部　健康・スポーツ科学科	2005年04月～2009年03月	担当科目：運動処方
13.武庫川女子大学　文学部　健康・スポーツ科学科（2011年04月から健康・スポーツ科学部）	2003年04月～現在	担当科目：バスケットボール
14.武庫川女子大学　生活環境学部　食物栄養学科	2003年04月～2005年03月	担当科目：運動生理学
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.中学校教諭一種免許状（保健体育）	1990年03月23日	平元中一第1103号
2.高等学校教諭一種免許状（保健体育）	1990年03月23日	平元高一第1135号
3.財団法人日本スキー連盟公認１級	1989年1月22日	
4.公益財団法人 日本バスケットボール協会 公認A級コーチ		ID：503497370
5.公益財団法人 日本スポーツ協会 競技別指導者資格コーチ4		日本スポーツ協会指導者登録番号：0070759
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.兵庫県バスケットボール協会　指導者育成事業	2022年7月24日	リフレッシュ講習 「1on1フィニッシュスキルについて」実技演習
2.兵庫県バスケットボール協会　指導者育成事業	2015年04月～現在	日本バスケットボール公認E級・D級指導者養成講習会講師
3.全日本大学バスケットボール連盟　役員	2015年04月～現在	2016年04月～2017年3月：平成28年度ユニバーシアード女子日本代表コーチ 2015年04月～現在：理事 2015年04月～2017年03月：女子強化副部長
4.日本バスケットボール学会　役員	2015年01月～現在	2015年01月～2016年12月：理事 2017年01月～現在：副会長
5.日本コーチング学会	2013年04月～現在	2013年04月～現在：機関誌「コーチング学研究」編集委員 2018年04月～2019年3月：理事
6.日本体育学会	2013年04月～現在	2017年04月～現在：「体育学研究」編集委員 2013年04月～2017年3月：国際誌「IJSHS（International Journal of Sport and Health Science）」編集委員
7.財団法人日本バスケットボール協会　指導者育成事業	2009年04月～現在	2016年08月～現在：技術委員会指導者育成部会ワーキンググループ 2014年08月～2015年11月：指導者育成委員会 2012年09月～2014年08月：テクニカル委員会 2009年04月～2012年09月：指導者育成委員会 日本バスケットボール協会と日本体育協会の共同事業である公認スポーツ指導者資格認定のための講習会の企画立案・運営、公認スポーツ指導者への情報発信、日本バスケットボール協会編集バスケットボール指導

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		教本の分担執筆を行なっている。 また、日本バスケットボール協会公認指導者ライセンスB級・C級・D級・E級コーチ養成講の各種講習会の講師を行なっている。
8.関西女子学生バスケットボール連盟	2003年04月～現在	2015年04月～現在：強化部長 2009年04月～2013年3月：競技部長 2003年04月～現在：常任理事
9.第19回女子アジア選手権大会戦術調査派遣（タイ：バンコク）	2001年10月	財団法人日本バスケットボール協会派遣 大会の全日程に参加　全日本女子チームに帯同し大会のビデオ撮影、戦術分析、資料作成を行い、スカウティングレポートを作成
10.第21回男子アジア選手権大会戦術調査派遣（中国：上海）	2001年07月	財団法人日本バスケットボール協会派遣 大会の全日程に参加　大会のビデオ撮影、戦術分析、資料作成を行い、スカウティングレポートを作成
11.第3回東アジア大会戦術調査派遣（大阪府）	2001年05月	財団法人日本バスケットボール協会派遣 世界強豪国のビデオ撮影、戦術分析、資料収集を行い、バスケットボールコーチング第5号に報告
12.シドニーオリンピック戦術調査派遣（オーストラリア：シドニー）	2000年09月	財団法人日本バスケットボール協会派遣 世界強豪国のビデオ撮影、戦術分析、資料収集を行い、バスケットボールコーチング第4号に報告
4 その他		
1.健康・スポーツ科学科 幹事教授	2023年4月～	
2.学生部常任委員（体育祭実行委員会顧問）	2019年4月1日2020年3月31日	
3.スポーツセンター長	2019年4月～2023年3月	
4.スポーツセンター委員、副ディレクター	2017年4月～2019年3月31日	スポーツセンターの副ディレクターとしてスポーツクラブ強化支援を担当
5.情報教育委員	2011年04月～2015年03月	
6.クラブ強化対策委員会委員	2010年4月～2017年3月31日	2017年04月～2019年03月：委員長 2013年04月～2016年03月：委員長 2012年04月～2013年03月：副委員長
7.教務委員	2010年04月～2011年03月	健康・スポーツ科学部認可申請
8.教務委員	2006年04月～2009年03月	カリキュラムのスリム化を実施

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.競技スポーツにおけるコーチング・トレーニングの将来展望ー実践と研究の場における知と技の好循環を求めてー	共	2021年3月22日	筑波大学出版会	高松薫（代表編集），他41名分担執筆，科学をよく知った競技者・指導者になる！　現場をよく知った研究者になる！　このことは、競技スポーツにかかわる競技者・指導者、研究者の願いであろう。本書は、様々な競技スポーツにかかわる知と技を実践サイドと研究サイドが共創・共有し、コーチング・トレーニングの将来への展望を開くものである。 坂井和明執筆箇所（単著）：Ⅰ実践サイドの眼 コーチング・トレーニングの内容 14バスケットボールの進化の歴史を詰め込んだ究極の攻撃を求めて．pp.83-89.
2.球技のコーチング学	共	2019年8月1日	大修館書店	日本コーチング学会（編集），他24名分担執筆. 日本コーチング学会が出版するコーチング学に関する叢書第1巻『コーチング学への招待』に続く第2巻．サッカー、ラグビー、ハンドボール、バスケットボール、バレーボール、卓球、テニス、バドミントン、野球などの個別のスポーツに関するコーチングを、「球技」という視点から一般化し、コーチングに関する一般理論と個別種目の理論を橋渡しする役割を担った一冊. 坂井和明執筆箇所（単著）：第2章 球技におけるゲームの特徴. pp.23-62.
3.コーチング学への招待	共	2017年04月10日	大修館書店	日本コーチング学会（編集），他45名分担執筆. 日本コーチング学会がコーチング学の一般理論としてまとめた本格的な専門書。 コーチング学の研究を行いながらJOCあるいは各競技団体強化スタッフとして活躍するかたわら、各大学のスポーツ指導現場で直接指導

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				にあたっているコーチが分担執筆。 坂井和明執筆箇所（単著）：第6章試合への準備 第6節トップ選手の試合計画-3判定スポーツ．pp.270-275.
4.バスケットボール指導教本「改訂版」下巻　第1章-2シュート	共	2016年09月20日	大修館書店	公益財団法人日本バスケットボール協会（編集），他15名分担執筆. 2002年に出版したバスケットボール指導教本の全面改訂版下巻。高度な技術や戦術の理解とその指導方法についてまとめている。 坂井和明執筆箇所（単著）：第1章ファンダメンタルの指導 -2 シュート．pp.11-34. 世界トッププレイヤーが実践している最新の技術・戦術を体系的に記述し、その指導方法について提案を行なっている.
5.バスケットボール指導教本「改訂版」上巻　第5章　シューティングの指導	共	2014年08月20日	大修館書店	公益財団法人日本バスケットボール協会（編集），他26名分担執筆. 2002年に出版したバスケットボール指導教本の全面改訂版上巻。指導者としての基本的な考え方や発育発達期のプレイヤーへの正しい理解、バスケットボールの基本的技術の理解とその指導方法についてまとめている。 坂井和明執筆箇所（単著）：5章シューティングの指導．pp.94-119. 「シューティングの指導」の章は，従来の指導教本における章内の小項目から章へ格上げし，大幅な書き直しを行った．「シュート指導の方向性」「基本的なシュート」「ワンハンドショット」の3項で構成し，日本バスケットボール界の更なる発展のために，国内の女子指導において問題となっているボースハンドシュートの項を削除し，改めて目標像としてのワンハンドシュートのメカニズムを詳細に記述し，発育発達の視点を加えた指導方法についても提案を行っている.
6.スポーツ科学・医学大事典　スポーツ運動科学ーバイオメカニクスと生理学ー	共	2010年10月05日	西村書店	阿江通良，河野一郎，高松薫，徳山薫平（監訳） 本書は、国際的に評価が高いスポーツ科学・医学シリーズである「Exersice & Sport Science」の邦訳である。生化学、運動生理学、基礎医学などの基礎科学から、臨床医学のトピックス，バイオメカニクス，応用生理学などの応用化学に至るまでをもれなく包括的、体系的にカバーするとともに、スポーツ科学の今日的課題を浮き彫りにしている。 坂井和明執筆箇所（単著）：第Ⅱ部 第5章間欠的運動の生理学 pp.50-60.
7.バスケットボールポストプレーのスキル＆ドリル	共	2009年03月20日	大修館書店	坂井和明・鈴木淳 ポストプレーヤーの特性とプレーの原則、ローポストとハイポストからの得点方法、オフェンスとディフェンスのリバウンドの技術とフットワークなど、ポストプレーに必要な技術・戦術、練習方法を網羅して解説する。
8.最新スポーツ科学事典	共	2006年09月25日	平凡社	日本体育学会（監修）約400名分担執筆. 本書は、体育学とスポーツ科学の各分野から、キー概念となる大項目(約500)を立項して50音順に配列した。さらに大項目のもと、関連する具体的な用語を小項目として配列している。体育哲学・体育史・体育社会学・体育経営管理・体育心理学・運動生理学・バイオメカニクス・発育発達・体育方法・測定評価・体育科教育学・保健・スポーツ人類学・スポーツ法学・スポーツ医学。項目ごとに参考文献を付した。 坂井和明執筆箇所（単著）：トレーニングの原則 pp.702-704.
9.スポーツ医学検査測定ハンドブック	共	2004年12月01日	文光堂	臨床スポーツ医学編集委員会 　本書は、スポーツ医学領域の検査測定について、幅広く取り上げ、整理するものである。 坂井和明執筆箇所（単著）：第1章B.種目別体力特性の測定と実際球技2.バスケットボール pp.62-64.
10.中学校体育・スポーツ教育実践講座	共	1998年02月	大修館書店	成田十次郎・川口千代・杉山重利（監修） 本書は、21世紀の中学校における体育科教育の在り方を、実践と理論の両面から体系化したものである。坂井分担部分は、中学校のクラブ指導におけるパソコンの有効利用法を、トレーニング理論およ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				び戦術理論に基づいて、実践的・具体的に紹介している。 坂井和明執筆箇所：第15巻　体育の学習指導と経営に生きるパソコンの活用　第３章　運動部活動とパソコン　第３節　パソコンを利用した記録・能力分析　バスケットボールの競技力向上のための記録・能力分析。
11.教師のための運動学	共	1996年04月01日	大修館書店	金子明友（監修），三木四郎，吉田茂（編著），他20名分担執筆. ・本書のねらいは，スポーツ運動学の基礎理論を，各競技スポーツの具体例を挙げながら，指導現場への応用と活用ができるようにしたところになる．坂井分担部分は，技術・戦術，戦術の階層性，局面構造といったバスケットボールの指導方法論を，スポーツ運動学的視点から導き出している． 坂井和明執筆箇所（単著）：第Ⅳ章9．ボール運動のゲーム学習の進め方 pp.229-254.
12.シリーズ［ トレーニングの科学]エンデュランストレーニング	共	1994年10月25日	朝倉書店	トレーニング科学研究会（編集），他34名分担執筆. ・本書の特徴は，エンデュランス（持久力）のトレーニング法を，スポーツ医科学的な基礎理論と，各競技スポーツの指導現場における実践および課題の両面から具体的に明らかにしたところにある．坂井分担部分は，バスケットボールを例に，球技スポーツのエンデュランストレーニングの目標像，トレーニング課題の明確化，トレーニング手段の準備について実践例を挙げてスポーツトレーニング学的視点より説明した． 坂井和明執筆箇所（単著）：2.競技スポーツにおけるエンデュランストレーニングの実際と課題-13バスケットボール pp.111-119.
2 学位論文				
1.球技スポーツ競技者における間欠的運動パフォーマンスのトレーニング課題に関する研究	単	2006年02月	平成17年度 筑波大学大学院 博士課程人間総合科学研究科	坂井和明 本研究は，球技スポーツの特殊持久力である間欠的なハイパワー発揮能力に焦点を当て，間欠的なハイパワー発揮能力とエネルギー産生能力との関係，球技スポーツの競技力を反映した体力特性の評価法，間欠的なハイパワー発揮能力のトレーニング課題，および間欠的なハイパワー発揮能力を高める個別性の原則を考慮したトレーニングの効果について検討することを目的とした．本研究の結果から，間欠的運動パフォーマンスのトレーニングを効果的に実施するためには，動作様式を考慮したフィールドテストを実施⇒無気的能力と有気的能力の優劣からみた体力特性のタイプ分け⇒トレーニング課題を個人ごと，あるいはタイプごとに設定⇒タイプに応じたトレーニング手段の準備⇒トレーニングの計画および実施⇒効果の評価という一連のトレーニング手順に従うことが有効であることを示唆した．また，間欠的運動パフォーマンスのトレーニング課題は，無気型群が回復能力を高めるための02系の能力の改善，有気型群が一回一回の動きの中で発揮するパワーそのものを高めるためのハイパワー発揮能力の改善になることが明らかにした．
3 学術論文				
1.「基礎技能→予備わざ→基本わざ→変形わざ・発展わざ」モデルを用いたバスケットボールにおける技術の構造化（総説）	単	2024年11月30日	日本バスケットボール学会	日本バスケットボール学会10周年記念特集号 バスケットボールの技術を効果的に指導するための構造化モデルを提案している。 このモデルは、基礎技能から発展技術までの段階的な習得を促進し、限られた時間で効果的に技術を学ぶための指針を提供するものである。
2.インドアバレーからビーチバレーへ転向する際の課題に関する研究：探索的因子分析により抽出された因子に着目して（査読付）	共	2017年06月	体育・スポーツ科学．26：1-7	今井啓介・坂井和明 本論文は，インドアバレーからビーチバレーへ転向したプレイヤーが、移行初期段階で何に難しさを感じていたのか、移行が進んだ段階で何を難しいと感じているのかを調査し、プレイヤー自身が主観的に感じている問題点を明らかにすることを目的とした． 本論文の結果，1．以降初期の指導では、特に風の影響を計算に入れてボールの軌道を予測できるようになることと、床上での動きを砂上での動きに変えていくことが主要な練習課題になる． 2．移行が進み風や砂への対応力がある程度高まり、意識を自分の体

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				に向けられるようになった段階に達して初めて、技術における身体操作そのもの指導にコーチングの焦点を移していく手順が有効であること、さらに移行が進んだ段階では極端な天候の中でもあえて練習を行い、その状況下で最善の解決策をプレイヤー2人に考えさせることが効果的であることを示唆した. ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
3.バスケットボールにおける即興的な攻撃戦術に関する質的研究：国際レベルで活躍したプレイヤーの語りを手がかりに（査読付）	共	2013年03月	健康運動科学. Vol.3, No.1, pp. 33-43.	坂井和明・鈴木淳 本論文は，即興的かつ効果的にプレイ経過を創出するタイプの攻撃戦術であるフリーランスを採用して国際的に高い指導実績を残している国内トップコーチの成功事例の特徴を行為者であるプレイヤーの視点から明らかにすることを目的とした. 本論文の結果，1. バスケットボールにおけるフリーランスには，個々のプレイヤーの動きにルールを設定することで個人戦術を効果的に連続させるタイプと，チームを2対2や3対3の部分集団に分けて階層的に認識し個々のプレイヤーの個性を生かすグループ戦術を素材にプレイ展開の予測を共有するタイプがあることを示唆した. 2. 速攻場面とセット場面とに分けて攻撃開始局面の拘束条件を生み出すルールを設定していたこと，攻撃の開始方法はポイントガードのプレイに他のプレイヤーが連動する方法と，ポイントガード以外のプレイヤーがグループ戦術を先に仕掛けてシュートチャンスを創り出す方法の2種類があったことを示唆した. ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
4.私の考えるコーチング論	単	2011年10月	コーチング学研究. 25(1), pp.7-12.	坂井和明 本論文は，競技スポーツのコーチングの中でも特に球技のコーチングに焦点を絞り， 1. 球技のコーチングとは 2. 球技のコーチングにおける仕事と行動および思考 3. コーチの資質と能力 4. コーチング哲学とコーチ像 5. コーチングの理論体系 について解説した. 本論文の結果，コーチングは，科学の領域よりもむしろ技術の領域に属する行為であることを指摘し，課題解決型思考のコーチングフローに沿って，目標論，評価・診断論，手段論，計画論，実践論のように，各手順の目的を達成するための技能，手順（技法），道具および知識の体系を整理することによって，コーチング学の理論体系を構築することが可能になることを示唆した.
5.バスケットボール競技における3ポイントシュート成功率と重心変位との関係：大学女子プレーヤーを対象として（査読付）	共	2011年03月	健康運動科学. Vol.2, No.1, pp. 9-20.	坂井和明・白井敦子 本論文は，3ポイントシュート動作における重心運動を，シュート成功率の高い熟練群と低い非熟練群間で比較することにより，重心変位とシュート成功率との関係を明らかにすることを目的とした. その結果， 1. 重心変位は，垂直方向と水平方向のいずれにおいても，全ての局面において熟練群が非熟練群よりも有意に小さい値を示した. 2. シュート成功率と，垂直方向の「④セット→リリース局面」，「セット→最大局面」，水平方向の「③構え→セット局面」の重心変位との間に，有意な負の相関関係が認められた. 本論文の結果，高度な正確性が要求される3ポイントシュートのコーチングにおいては，垂直方向および水平方向のいずれにも大きな重心の移動を伴わずにシュートする動作を指導することの重要性を示唆した. ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
6.移動手段としての階段利用の推奨が身体活動の強度および量に及ぼす影響―若年女性を対象とした予備的検討―（査読付）	共	2010年10月	健康運動科学. Vol.1, No.1, pp. 25-30.	松本裕史・坂井和明・伊達萬里子・田嶋恭江 本論文の目的は若年女性を対象に，移動手段としての階段利用を中心とした日と昇降機利用を中心とした日との強度別の身体活動量を比較することによって，階段利用の推奨が身体活動の強度および量に及ぼす影響を予備的に検討することであった. その結果，階段使用を中心とした日は昇降機利用を中心とした日と比較して，中強度の身体活動量，総エネルギー消費量，運動量および歩数が有意に多

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				かった．本論文の結果，移動手段としての階段利用の推奨は，中強度の身体活動力だけでなく，総エネルギー消費量や運動量を増加させる可能性があることを示唆した． ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
7.球技スポーツ競技者の間欠的なハイパワー発揮能力（査読付）	単	2010年03月	フットボールの科学．5，pp.19-34.	坂井和明 本論文は，球技の専門的持久力を，影響する要因，評価方法，トレーニング課題の設定法，トレーニング効果，という4つの視点から検討することによって，球技の専門的持久力の効果的なトレーニング法を明らかにすることを目的とした．本論文の結果，専門的持久力の強化のためには，「動作様式を考慮したフィールドテスト実施→体力特性のタイプ評価→タイプごとのトレーニング課題の設定→タイプごとのトレーニング手段の準備→タイプごとのトレーニング計画および実施→効果の評価」という一連のコーチングフロー（手順）に従うことが有効であることを示唆した．
8.健康・スポーツ科学科の科目と資格に対する学生ニーズ（査読付）	共	2010年03月	武庫川女子大学紀要（人文・社会科学）．第57巻，pp.83-90.	中村哲士，坂井和明，松本裕史，濱屋桃子，田中繁宏 本研究の目的は，本学科における教育内容の再検討に際してその資料を得ることを主目的に，設置している専門科目と取得可能資格に関して再度学生ニーズ調査をし，学年間に存在する意識の違いについて分析しようとするものであった． ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
9.女子大学生の身体不活動を規定する心理的要員の縦断的検討（査読付）	共	2008年03月	大学体育学．5号，pp.27-34.	松本裕史・坂井和明・野老　稔． 本研究の結果から，身体不活動な女子大学生に対してトランスセオレティカル・モデル（TTM）に基づいた身体活動介入を行う場合，女子大学生特有の反応を考慮した介入アプローチを行う必要性が示唆された． ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
10.球技スポーツ競技者における個別性の原則を考慮した体力トレーニングの効果（査読付）	共	2006年08月	体育学研究．51(1)，pp.21-32.	坂井和明，伊藤竜兵，大高敏弘，高松　薫 ・平成19年度 日本体育学会 学会賞受賞 ・本論文の目的はバスケットボールチームを例に，全員に同一トレーニングを実施した場合と，トレーニングの手順に沿いながら個別性の原則を考慮したタイプ別トレーニングを実施した場合における，間欠的なハイパワー発揮能力に対するトレーニング効果を比較検討した． ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
11.若年女性における主観的健康感と健康行動セルフ・エフィカシーとの関連（査読付）	共	2005年03月	武庫川女子大学紀要（人文・社会科学）．第52巻，pp.105-110.	松本裕史，坂井和明，野老稔，田中繁宏，相澤徹，會田宏，小柳好生，中村真理子，四元美帆 本論文の第一の目的は，健康行動セルフ・エフィカシーを測定する尺度を作成することであった．その結果，健康行動セルフ・エフィカシー尺度は１因子６項目からなり，信頼性及び妥当性を有する尺度であることが明らかになった． ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
12.コーチングスキル構築のための基礎的研究：体育系女子大学生が描く理想的なコーチ像を手がかりに（査読付）	共	2005年03月	スポーツ方法学研究．18(1)，pp.11-22.	野老　稔・坂井和明 ・平成17年度日本スポーツ方法学会奨励賞受賞 本研究は、効果的なスポーツコーチングスキルを構築するために、体育系女子大学生が描く理想的なコーチ像を明らかにすることを目的とした。本研究の結果から、スポーツコーチングスキルの構築には、「どのような関係を構築するか」という視点、ならびに、その関係を構築するためのコミュニケーションスキルの必要性が示唆された。 ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
13.球技選手における間欠的なハイパワー発揮能力のトレーニング課題に関する研究：エネルギー産生能力のタイプに着目して（査読付）	共	2000年03月	体育学研究　45巻２号，pp.239-251	坂井和明・水上一・斉藤一人・John Sheahan・高松薫 ・平成13年度日本体育学会奨励賞受賞 本論文は、間欠的なハイパワー発揮能力を、無気的能力と有気的能力の優劣から見たタイプの相違と関連づけて捉えることによって、球技スポーツにおける特殊持久力のトレーニング課題を明確化するための基礎的知見を得ることを目的とした。本論文の結果、球技スポーツ選手の特殊持久力のトレーニング課題を明確化していく際には、各種目の特徴と目指す戦術を考慮しながら、無気的能力と有気的能力から見たタイプの相違をもとに、個人毎に間欠的なハイパ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				ワー発揮能力の限定要因を明確化し、それに見合ったトレーニング課題を設定していく必要があることを示唆した。 ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
14.初動負荷法によるレジスタンストレーニングの生理学的特徴とパフォーマンスに対する影響（査読付）	共	1999年03月	日本女子体育大学紀要　29巻，pp. 102-111.	村夏実・坂井和明・大門芳行・根本勇・小山裕史・岩竹淳・鈴木朋美・小田宏行・黒田善雄 本論文は、１）初動負荷法（Ballistic Type Resistance Training）と終動負荷法によるレジスタンストレーニング実施中の生理学的応答の比較、２）短期間の初動負荷法によるトレーニングが関節の可動域に及ぼす影響、３）ウォーミングアップとしての初動負荷法がパフォーマンスに及ぼす影響、の３点について検討した。 ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
15.コーチの選手評価と統計分析の接点	共	1998年12月	東京体育学研究 1998年度報告. pp.1-5.	小林敬子・坂井和明・青山昌二 本論文は、バスケットボールを例に、コーチが選手の競技力を主観的にどのように評価しているかを、統計的手法（主成分分析、重回帰分析）を用いることによって明らかにすることを目的とした。本論文の結果、コーチは選手の競技力を評価するに当たって、選手の心理的、体力的、戦術的、技術的特性の単なる総和を競技力と見なしているわけではないことが明らかになった。コーチは、選手の戦術的な能力に主眼をおき、次に競技者としての基本的な資質に注目している様子が明らかになった。 ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
16.間欠的なハイパワー発揮能力と３種のエネルギー産生能力との関係（査読付）	共	1998年08月	体力科学　48巻４号，pp.453-466.	坂井和明・Joho Sheahan・高松薫 本論文は、ラボラトリーテストに加えて、球技スポーツの運動様式を考慮したフィールドテストを用いて、間欠的なハイパワー発揮能力と３種のエネルギー産生能力との関係について検討した。本論文の結果、ハイパワーを完結的に発揮するためには、前提条件として02系の能力に優れる必要があること、また、02系の能力では、最大酸素摂取能力よりも最大下運動の持続能力の方がより大きな影響を及ぼすことを明らかにした。したがって、球技スポーツのスタミナを高めていく場合には、ハイパワーの発揮能力そのものを高めるトレーニングと同時に、回復力としての02系の能力を高めるトレーニングが必要であることを示唆した。 ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
17.ボールゲームの試合におけるティームの競技力構造の分析－バスケットボールの場合－（査読付）	共	1998年03月	日本女子体育大学紀要　28巻，pp. 17-26.	坂井和明･大門芳行･小林敬子 本論文は、バスケットボールを例に、ボールゲームにおける個人の達成とティームの達成を数量化して把握し、試合におけるティームの競技力構造を明らかにするための基礎的知見を得ることを目的とした。本論文の結果より、得点以外のプレーをプラス貢献のプレーとマイナス貢献のプレーに分類し、各プレーにプラスとマイナスのポイントを与えることによって、試合における個人の達成度とティームの達成度を数量化して把握することができた。また、主成分分析の手法を用いることによって、試合の勝敗に対して、個人がどのような機能を果たしたかを明確に把握し、試合におけるティームの競技力構造を明らかにできる可能性を示唆した。 ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
18.球技スポーツ選手の体力特性の評価法に関する研究－動作様式を考慮したフィールドテストを用いて－	共	1997年05月	臨床スポーツ医学　14巻15号，pp. 567～572.	坂井和明・大門芳行・根本勇・黒田善雄 本論文は、大学女子バスケットホール選手を対象に、生理学的指標を用いるラボラトリーテストと、運動パフォーマンスを指標に用いるフィールドテストの両者を実施し、球技スポーツ選手の競技力と直結した体力特性を評価するための適切な評価方法を明らかにすることを目的とした。本研究の結果より、球技スポーツ選手の競技力と直結した体力特性を適切に評価するためには、ラボラトリーテストよりも、スポーツ運動学における運動構造研究を踏まえた、球技スポーツの動作様式を考慮したフィールドテストの方が適していることを明らかにした。 ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
その他				
１．学会ゲストスピーカー				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
1.球技におけるゲームの構造的特徴	単	2019年9月11日	日本体育学会第70回大会 体育方法専門分科会シンポジウム	テ ー マ： 球技のコーチングに関する一般理論の構築 司　　会：會田　宏（筑波大学）・金堀　哲也（読売巨人軍） 演　　者： 中川　昭（筑波大学）コーチングに関する一般理論をスポーツ類型別に構築する意義と方法 坂井　和明（武庫川女子大学）球技におけるゲームの構造的特徴 中山　雅雄（筑波大学）球技におけるトレーニングの原則
2.1. スクラップ・アンド・ビルドーチーム作り試行錯誤の軌跡 2. バスケットボール研究についての提案	単	2016年08月09日	日本バスケットボール学会　サマーレクチャー2016（第二回サマーレクチャー）	坂井和明 省察しながらチームを創る 1）PDCAサイクルを回しながら 2）　球技のトレーニング計画の難しさ 目指すバスケットボール像の変化 1）San Antonio Spurs 2013-14
3.『私のトレーニング計画とその実践』	単	2016年03月14日	日本コーチング学会第27回大会（兼）日本体育学会体育方法専門領域研究会第9回大会シンポジウム	坂井和明 球技のコーチングにおいてトレーニング計画を立案する場合①チームが複数のプレイヤーによって構成される集団であること②ゲーム構想→チーム→戦術→グループ戦術→個人戦術→個人技術→基礎的運動能力→体力要素…という複雑な階層構造をとること③短期決戦のトーナメント戦と長期のリーグ戦の両方に備えることの3点に対応しなければならない． ①については学年進行に伴うコンディショニングやスキルレベルに差があること怪我人のリハビリテーションを別スケジュールで行う必要がある．②については「戦術的ピーキング」とでも表現できる，目標とする試合にチームの仕上がりが「間に合うか」を計算する絶妙な距離感が必要になる．③一般的準備期から試合期へと進める一般的な直線型のピーキングと，数週間ごとに課題を変化させながら部分練習と全体練習とを繰り返しながらチーム力を高めていく螺旋型のピーキングの両方が必要になる．
２．学会発表				
1.大学女子バレーボール競技におけるチームトレーニング課題の明確化ーセットの勝敗に着目してー	共	2024年3月3日	日本刻子ング学会第35回学会大会（朝日大学）	本研究は、2023 年度関西大学女子秋季 1 部リーグ戦を対象とし、ブレイク率とサイドアウト率でセットの勝敗が予測可能で あることを確認した上で、サイドアウト率とブレイク率に影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的とした。 2 項ロジスティック回帰分析の結果、セットの勝敗はブレイク率・サイドアウト率から 90%以上の確率で予測可能であるこ とが明らかになった。重回帰分析の結果から、ブレイク率は、サーブ効果率・ブレイク時のディグアタック決定率だけでは予 測精度が低いため、ブレイク率に影響を及ぼす他の要因について再検討する必要があることが示唆された。サイドアウト率は、 サーブレシーブ AB 返球率・サーブレシーブ成功率・レセプションアタック決定率・サイドアウト時のディグアタック決定率 からある程度の予測が可能であることが明らかになった。また、どのような勝ち方をしたかを表すセット終了時の得点差を従 属変数とした重回帰分析を行った結果、ブレイク率・サイドアウト率からセットの勝ち方も予測可能なことが明らかになった。 さらに、ブレイク率およびサイドアウト率から自チームや対戦相手の特徴を可視化する方法についても検討中である。
2.コーチの統制的行動と支援的行動が競技者のセルフハンディキャップおよび 目標志向性に及ぼす影響ー自尊心およびスポーツ競技特性不安に着目してー	共	2023年9月1日	日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会	佐久川ひとみ・坂井和明 　スポーツ指導者とは、競技者やチームを育成し、目標達成のために最大限のサポートをする人と定義されている。同時に、コーチの言動や態度が選手の動きや情動、時にはパフォーマンス自体を左右することがあると指摘されているように、スポーツ指導者は競技者の身体的、心理的な成長へ影響を与える重要な存在でもある。 戸山ら（2019）は、指導者の統制的行動という社会的文脈が、競技者の目に見えない内面の基本的心理欲求を媒介し、競技者の動機づけ（なぜスポーツに取り組むのかという思考）に影響を与えるモデルの有効性を検証している。基本的心理欲求以外にも、競技者の目に見えない内面の心理的特性には、自尊心や不安感情などが挙げられる。また、競技者の思考としては、良い結果が出ても悪い結果が出

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				ても自尊心が傷つかずに済むために事前に言い訳を準備するセルフハンディキャップ（ SHC）を挙げることができる。 SHCは、達成を阻害する非適応的なものであり回避すべきものであると考えられている。さらに、成功のためならリスクを進んで受け入れる利得接近志向や、その逆の失敗しないように慎重にリスクを避けるなどの損失回避志向もまた、競技者の思考として重要な研究課題になると考えられる。 　しかしこれらは、これまで単独で研究対象とされており、指導者の統制的行動や支援的行動といった社会的文脈が競技者の内面を媒介した上で思考として現れてくるというモデルを用いて検証されてはいない。これらの関係性を構造的に明らかにすることができれば、挑戦する思考や失敗を成長の機会と捉えることができる競技者育成に有用な知見を得ることができると考えられる。 そこで本研究では、指導者の統制的行動と支援的行動が競技者のセルフハンディキャップおよび目標志向性に及ぼす影響を、基本的心理欲求、自尊心およびスポーツ競技特性不安と関連づけて明らかにすることを目的とした。 ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
3.競技者の自尊心・自己効力感・接近回避志向とセルフハンディキャップとの関係 ―準備性に着目して―	共	2023年9月1日	日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会	安達 杏香・坂井 和明 高めた競技力を実際の試合で十分に発揮できないアスリートがいる。その原因の一つに、セルフハンディキャッピング（ self-handicapping：以下 SHC）があげられる。 SHCは、自分が行おうとする行動がどのような結果を生み出すのかを予測して、その時点で自分に有利な解釈ができるようにする方略のため、学業やスポーツでの達成を阻害する非適応的なものであり、できるだけ回避するべきであると考えられている。しかし、SHCの下位因子である準備性においては、目標との関連をみる限り、高い不安やミスへの恐れといった側面は希薄て゛あり、単に完璧さを求めて準備を行うといった肯定的側面を有していると考えられている （森年・伊藤，2010）。また、戸山ら（2019）は、社会的文脈が、競技者の目に見えない内面の基本的心理欲求を媒介し、競技者の動機づけ（なぜスポーツに取り組むのかという思考）に影響を与えるモデルの有効性を検証している。基本的心理欲求以外にも、競技者の目に見えない内面の心理的特性には、自尊心や自己効力感などが挙げられる。また、競技者の思考としては、 SHCを挙げることができる。さらに、成功のためならリスクを進んで受け入れる利得接近志向や、その逆の失敗しないように慎重にリスクを避けるなどの損失回避志向もまた、競技者の思考として重要な研究課題になると考えられる。これらの関係性を構造的に明らかにすることができれば、挑戦する思考や失敗を成長の機会と捉えることができ、競技者育成に有用な知見を得ることができると考えられる。そこで本研究では、アスリートの基本心理欲求、自尊心、自己効力感および接近回避志向と SHCとの関係について、準備性に焦点を当てて検討することを目的とした。 ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
4.女子陸上七種競技におけるトラック種目とフィールド種目のポイント獲得方法の変化：2004年中学生競技規則変更の影響に着目して	共	2017年12月16日	日本陸上競技学会第16回大会	西村莉子・新井彩・坂井和明 日本女子七種競技におけるポイント獲得方法に2004年の中学生競技規則変更がどのように影響を及ぼしているのかを明らかにすることを目的とした．本研究の結果から，中学生時期には旧競技規則に含まれていた走幅跳を競技種目に加えることと、砲丸投げに変わるオーバーハンドスロー動作を含んだ種目を採用することが良いのではないかということが明らかになった． ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
5.女子陸上競技七種競技におけるトラック種目とフィールド種目の得点獲得方法の変化－2004年中学生競技規則変更の影響に着目して―	共	2017年03月	日本コーチング学会第28回大会 兼 第10回日本体育学会体育方法専門領域研究会	西村莉子・新井彩・坂井和明 日本女子七種競技におけるポイント獲得方法に2004年の中学生競技規則変更がどのように影響を及ぼしているのかを明らかにすることを目的とした．本研究の結果から，中学生時期には旧競技規則に含まれていた走幅跳を競技種目に加える方が良いのではないかということが明らかになった． ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
6.インドアバレーからビーチバレーへ移行する際に克服すべき技術的課題に関する研究	共	2015年06月	兵庫体育・スポーツ科学学会 第26回学会大会	今井啓介・坂井和明 探索的因子分析の結果, 1）移行初期と今現在では難しさの因子が変わる 2）移行初期では仮因子として設定した自然環境の項目の中の風が技術と合わさって一つの因子を構成する 3）移行初期では砂への対応は独立した因子を構成する ということが明らかになった. ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
7.大学女子バスケットボール選手の傷害発生について－３年間の調査より－	共	2006年09月	日本体力医学会 第61回大会	山本嘉代，小柳好生，坂井和明，相澤徹，田中繁宏，野老稔 大学女子バスケットボールチームノ練習内容および傷害発生状況を調査し，競技力向上と傷害予防に役立つ情報を得ることを目的とした．本研究の結果から，受傷部位は足関節が最も多く，内再受傷も多数認められることが明らかになった. ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
8.大学女子バスケットボールにおける障害発生状況の検討	共	2004年10月	日本臨床スポーツ医学会 第15回大会	野老稔，小柳好生，坂井和明，村川増代，中村真理子，四元美帆，相澤徹，田中繁宏 本研究では，バスケットボールーの障害発生要因を調査し，発生原因の傾向を明らかにして今後の障害予防に役立て，さらなるバスケットボールの発展につなげることを目的とした．本研究の結果から，部位別では足関節が最も多く，発生件数は試合中よりも練習中の方が多い傾向が見られた．また，試合中の外傷は全例が競技中断に結びついた. ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
9.バスケットボール選手の特性のMDSによる分析－５段階、３段階法の比較－	共	1999年09月	日本行動計量学会 第27回大会	小林敬子･坂井和明・岡太彬訓 バスケットボールを例に、競技スポーツのコーチが、選手の競技力構造を、多次元尺度構成法（MDS）を用いて把握する場合に、５段階法と３段階法のいずれが適しているかについて検討した。本研究の結果から、解釈上あるいはコーチの判断のしやすさのいずれにおいても、３段階法の方が適していることが明らかになった。 ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
10.バスケットボール選手の特性のMDSによる分析－チーム構成への応用－	共	1999年09月	日本行動計量学会 第27回大会	小林敬子･坂井和明・岡太彬訓 バスケットボールを例に、競技スポーツのコーチが、選手の競技力構造を主観的にどのように把握し、チーム構成を行っているかを、多次元尺度構成法（MDS）を用いて客観的に明らかにすることを目的とした。本研究の結果から、コーチが選手の心理的、体力的および技術的側面などの個別の特性を基に、経験的・主観的に選手を幾つかのタイプに分類して把握し、チーム構成や選手起用に生かしている事を、MDSを用いて客観的に明らかにすることができた。 ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
11.強いチーム，強い選手の作り方	単	1997年03月	第９回トレーニング科学研究会 トレーニング科学トピックス３ トレーニングディスカッション	坂井和明 球技スポーツにおけるトレーニング管理の方法論を，トレーニング計画とトレーニングの要素の２面から，実践例を交えながら報告している．トレーニング計画に関しては，コンピュータを利用したトレーニング計画の立案から年間を通じたトレーング計画の修正について焦点を当てている．トレーニングの要素に関しては，技術・戦術トレーニングと体力トレーニングについて，それぞれ具体的な方法論を提示している.
12.試合の流れの計量分析：バスケットボール	共	1996年09月	日本行動計量学会 第24回大会	岸野洋久，坂井和明，小林 バスケットボールを例に，球技スポーツにおける「試合の流れ」を決定づける要因を統計的手法を用いて明らかにすることを目的とした．本研究の結果から，試合の流れを点過程でモデル化することによって，一つ一つのプレーが相互に影響し合って形成する試合の流れを，定量化できる可能性が示唆された. ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
13.球技スポーツにおける体力の評価法に関する研究―動作様式を考慮した体力テスト（バスケットボー	共	1995年10月	日本体育学会 第46回大会	坂井和明，大門芳行，根本勇，黒田善雄 本研究では，間欠的運動という特性を持つ球技スポーツ選手の体力特性を，より適切に評価するための方法について，バスケットボールを例に，一般的な実験室テストと，動作様式を考慮したフィールドテストを用いて検討した．本研究の結果から，バスケットボール

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
ルを例に）―				選手の競技力と直結した体力特性を評価するための体力テストは，実験室テストよりも動作様式を考慮したフィールドテストの方が適していることが示唆された． ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
14.バスケットボール競技の勝敗に影響を与える要因分析―数量化３類を用いた解析を主として―	共	1995年10月	日本体育学会 第46回大会	小林敬子，大門芳行，坂井和明，　岸野洋 球技スポーツの試合における選手の数量化されたパフォーマンスを，数量化された変数に数量化３類を用いることによって，構造化して捉えることを目的とした．本研究の結果から，数量化３類の手法を用いることによって，試合における各選手の貢献を構造化して把握し，視覚的に捉えることができると示唆した． ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
15.球技スポーツにおける状況判断能力に関するスポーツ運動学的研究	単	1995年03月	日本スポーツ運動学会 第8回大会	坂井和明 状況判断の概念的モデルとして，U.Nisserの示した知覚循環モデルを用いて，球技スポーツにおける状況判断能力の優劣差を規定する要因について検討した．本研究の結果から，状況判断能力の優劣差を規定する要因として，知覚循環モデルにおける１）図式の活性化，２）行為の方向付け，３）情報の抽出，４）図式の修正　の４つの要因が示唆され，スポーツトレーニングの一領域である戦術トレーニングにおける基礎的な知見が明らかになった．
16.球技スポーツにおける状況判断に関するスポーツ運動学的研究―知覚循環モデルを用いて―	共	1994年10月	日本体育学会 第45回大会	坂井和明・大門芳行 バスケットボールを例として，その攻撃の際の速攻場面での状況判断に限定し，知覚循環モデルを用いて，状況判断能力の優劣差を規定する質的要因について検討した．本研究の結果から，ボールゲームにおける状況判断能力の優劣差は，１）ゲーム状況を正確に認知できる能力，２）ゲーム状況に適切なプレーの予期図式を呼び出せる能力，３）予期図式に基づいて正確にゲーム状況を観察できる能力　によって影響を受けることが示唆された． ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
17.有気的最大下運動中における間欠的なハイパワー発揮能力に関する研究―方向変換走による場合―	共	1993年11月	日本体育学会 第44回大会	坂井和明，高松薫 球技スポーツに特有の動きを含んだ方向変換走を用いて，無気的能力と有気的能力の優劣からみたタイプの相違が，間欠的な無気的パワーの発揮能力に及ぼす影響について検討した．本研究の結果から，絶対的にあるいは相対的に有気的能力に優れる者は，無気的パワーを高い水準で間欠的に長時間発揮できることが示唆された． ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
18.有気的最大下運動中における間欠的なハイパワー発揮能力に関する研究―方向変換走による場合―	単	1992年12月	日本体育学会 第43回大会	坂井和明 間欠的に発揮される無気的パワーが，各エネルギー系の能力によって，どのように影響されるかを明らかにし，球技スポーツの持久力トレーニングに関する基礎的知見を得ることを目的とした．本研究の結果から，ATP-CP系の能力は，間欠的運動の初期に発揮されるパワーと高い相関関係を示すが，その値はセット数が進むにつれて小さくなり，逆に，O2系の能力との相関係数はセット数が進むにつれて徐々に大きくなることが明らかになった．
19.同一記録を有する女子800m選手の無気的パワー，無気的持久力および有気的持久力から見た特性	共	1991年10月	日本体育学会 第42回大会	坂井和明，高松薫，図子浩二，永井純 女子800m選手には，400mを得意とする短距離タイプと，1500m，3000mを得意とする長距離タイプが存在している．本研究では，ほぼ同一記録を有するタイプの異なる女子選手を対象に，そのタイプの相違がどの体力要因に影響されるかについて検討した．その結果，女子800m選手にみられるタイプの相違は，統計的には，無気的パワーや無気的持久力に影響されるが，有気的持久力には影響されないことが認められた． ・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
20.有気的最大下運動中における断続的な無気的パワーの発揮能力について	共	1990年09月	日本体力医学会 第45回大会	坂井和明，高松薫，図子浩二 高強度と低強度の運動を交互に行うインターバル的運動中に発揮される無気的パワーと，行動体力の要因である無気的パワー，無気的持久力および有気的持久力との関係について検討した．本研究の結果から，有気的最大下運動中に断続的に発揮される無気的パワーは，運動の初期では無気的パワー，運動の中盤以降では有気的持久力に影響されることが認められた．

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				・共同研究につき本人分担部分抽出不可能
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.第34回日本女子学生選抜バスケットボール大会　第３位		2017年07月		関西女子学生選抜チーム監督
2.第38回関西女子学生バスケットボール選手権大会　第３位		2017年05月		武庫川女子大学バスケットボール部ヘッドコーチ
3.第32回日本女子学生選抜バスケットボール大会　優勝		2015年07月		関西女子学生選抜チーム監督
4.全日本学生バスケットボール選手権大会　第５位		2010年11月		武庫川女子大学バスケットボール部コーチ
5.全日本学生バスケットボール選手権大会　第３位		2008年11月		武庫川女子大学バスケットボール部コーチ
6.第24回日本女子学生選抜バスケットボール大会　第３位		2007年07月		関西女子学生選抜チームコーチ
7.第28回関西女子学生バスケットボール選手権大会　準優勝		2007年05月		武庫川女子大学バスケットボール部コーチ
8.全日本学生バスケットボール選手権大会　第６位		2004年12月		武庫川女子大学バスケットボール部コーチ
9.関西女子学生バスケットボールリーグ戦　優勝		2004年09月		武庫川女子大学バスケットボール部コーチ
10.全関西女子学生バスケットボール選手権大会　準優勝		2004年05月		武庫川女子大学バスケットボール部コーチ
11.日本女子学生選抜バスケットボール大会　第４位		2004年04月		武庫川女子大学バスケットボール部コーチ
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				
1.文部科学省科学研究費　基盤研究（Ｃ）	単	2010年～2012年：3年	文部科学省および日本学術振興会	バスケットボールにおける即興的な攻撃戦術に関する研究：コーチの語りを手がかりに 2010～2012年度 課題番号：22500598
2.文部科学省科学研究費　若手研究（Ｂ）　新規	単	2005年～2006年：2年	文部科学省および日本学術振興会	複雑系化学の視点を用いたボールゲームの戦術研究―プレイヤー間の関係性に着目して― 2005～2006年度 課題番号：17700511
3.文部科学省科学研究費　基盤研究（Ｃ）	共	2004年～2007年：3年	文部科学省および日本学術振興会	女子アスリートの筋力トレーニングにおける成長ホルモン分泌の影響 2005～2006年度 課題番号：16500430

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2023年4月1日～2026年3月31日	日本コーチング学会　理事
2.2015年11月～現在	日本バスケットボール学会
3.2003年4月～現在	日本コーチング学会
4.1992年04月～現在	トレーニング科学研究会

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
5.1992年04月～現在	スポーツ運動学会
6.1990年04月～現在	日本体力医学会
7.1990年04月～現在	日本体育学会